



『現代世界憲章』から観る
「現代の世界」

光延一郎（イエズス会）

▶現代グローバル世界における次の10年間の最も深刻なリスク:

- ✓ エネルギー供給危機と食料危機
- ✓ インフレ上昇
- ✓ サイバー攻撃
- ✓ グローバルパンデミックの健康と経済的余波
- ✓ ヨーロッパでの戦争とグローバル統合経済への影響
- ✓ 技術競争と強化された国家介入を基盤としたエスカレートする技術軍拡競争

(世界経済フォーラムの「Global Risks Report 2023」)

◆ 現代世界における平和についての根本問題

- ✓ COVID-19パンデミックは平和構築の成果を逆転させ、**不寛容や過激主義**が蔓延するようになった
- ✓ 持続可能な平和を確保するためには、**不平等や格差によって燃え上がる分断**など、紛争の根本原因を解決することが重要

(国連安全保障理事会)

◆ 持続可能な平和構築のために必要なこと

✓ **世界人権宣言**に基づく基本的人権の指標である政治的自由基盤とすること

→「人類社会のすべての構成員の固有の**尊厳と平等**で譲ることのできない権利とを承認することは、**世界における自由、正義及び平和の基礎**である」：**法の支配**による**人権保護**、**諸国間の友好関係**、基本的人権、人間の尊厳及び価値並びに**男女の同権**…)

✓ 紛争の根本原因と対応策を特定するために、**国連システム全体が人権を促進すること**

(OHCHR《国連人権高等弁務官事務所》の報告)

◆日本に暮らす人々は幸せか？

★『世界幸福度報告2023年版』

国連の諮問機関「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN)」発表

▶アジア諸国の中では、台湾が27位。日本は47位。韓国57位。中国は64位。最下位はアフガニスタン。

▶2022年度は、台湾が26位。日本は54位。韓国59位。中国は72位。

▶基準

- 1.一人当たり国内総生産 (GDP)
- 2.社会保障制度などの社会的支援
- 3.健康寿命
- 4.人生の自由度
- 5.他者への寛容さ
- 6.国への信頼度

★「世界幸福度ランキング2019年版」日本の要因別順位

➤ 健康寿命 2位 (74.8歳)

➤ GDP 24位

➤ 自由度 64位

➤ 寛容さ 92位

➤ 腐敗のなさ 39位

★『世界報道自由度ランキング2022』: 日本は71位

※2010年鳩山由紀夫内閣時の11位

★ジェンダーギャップ指数 2023: 日本は146カ国中125位

(前年116位)

ニッポン スゴイネ！

経済

国民は貧しく

- GDP超長期停滞 世界最悪 1995~
- 1人当たりGDP、2→31位に没落
直近は、韓国、台湾にも抜かれる
- 実質賃金減り続け 世界最悪 1996~
- 非正規化/低賃金化が原因 世界唯一
- 人材派遣会社事業所数が世界最多
- 結婚を諦める若者が激増
- 子どもの13%が貧困 子ども食堂 7000超
- 人口減世界最速ペース 77万人減@2022
- 政府の負債が世界最多 GDPの2.6倍
日銀が国債の50%以上を保有、他国に例なし

民主主義/人権

実は後進国

- 報道の自由度ランキング~70位
政府が放送局の許認可権を握る、独裁国家のよう
NHKは予算承認などで、政府/与党に抗えない
おもねる
- 権力に阿るメディア 政権/大企業/J喜多川
- ほぼ内閣独裁 安倍デモクラシー
- 日本だけ夫婦同姓を強制 リンクQ12参照
- 男女平等ランキング 116位/146ヶ国
- LGBT関連法 全く整備されず
- 死刑制度が残る少数派国 55/199ヶ国
- 外国人を人権蹂躪 技能実習生、難民認定
- 国連人権理事会勧告をガン無視

政治

世襲と利権

- 世襲議員の比率 世界最多
- 世襲三代目首相が日本を壊す
- 国会議員報酬/政党交付金が世界最高レベル 加えて調査研究広報滞在費100万円/月
- 選挙の供託金が世界一高い
- 政権党が反日カルトとズブズブ
- 比例得票率17%の党が6割の議席
- 最も反道徳的な政治家が国葬に
- 公文書改竄した官僚が出世！
- 宗教と原発が2大利権

科学技術/教育

凋落の一途

- 太陽光/半導体/液晶/Li電池/EV…先行したのに、競争に負け続け
- 水素/リニアなど筋悪技術が好き
- 教育への公的支出が少ない
- 高い授業料、有利子ローン奨学金、若者を食い物に 少子化の一大要因
- 世界大学ランキング 下がるばかり
- 世界教育水準ランキング 急落
- 注目論文数は10位に後退
- 研究不正大国

健康/社会/環境

命より目先の金

- **食料自給率 37%** 世界で最初に飢える国
- **魚が穫れないのは日本だけ** 政府の無策
- **残留農薬基準が最も緩い** 輸入小麦/大豆はグリホサートまみれ、米国産牛肉はホルモン漬け
- **青少年の体格が中韓台より下に**
- **精神病床数が最多** 全世界の20%も、利権
- **延命医療はまるで虐待、高額**
- **ギャンブル依存症が世界最多** 450万人
それでもカジノ招致の自公維新
- **談合/中抜き/不正行為が国技**
- **地震の頻度、被害額世界一**
- **原発60年超運転の無謀と狂気**
- **再エネ拡大を阻む大手電力** 不正閲覧
送配電事業、完全分離すべし

- ✓ **民主主義の劣化**: 安保3文書 敵基地攻撃能力・大軍拡、原発推進へ大転換、身内人事、統一教会問題→選挙制度
- ✓ **衰退する日本**: 人口減・子育て支援 教育費負担・技術革新の停滞、給与格差・非正規雇用
- ✓ **戦争による世界の不安定化**: 物価高騰・軍事費増税
- ✓ **人権意識の鈍さ**: ジェンダー、LGBTQ、社会進出(公的な場からの女性の排除)、選択性夫婦別姓、難民・技能実習生入管法、日本学術会議への干渉

▶「アメリカ合衆国ホロコースト記念博物館」(ワシントンDC)に展示されている**ファシズムの兆候**を示したリスト(政治学者Laurence W Brittによる)

- ✓ 強力で継続的な**ナショナリズム**
- ✓ **人権の軽視**
- ✓ 団結の目的のため**敵国を設定**
- ✓ **軍事優先**(軍隊の優越性)
- ✓ はびこる**女性蔑視**
- ✓ **マスメディアのコントロール**
- ✓ **安全保障強化への異常な執着**
- ✓ **宗教と政治の一体化**
- ✓ **保護される企業のカ**
- ✓ **抑圧される労働者**
- ✓ **知性や芸術の軽視**
- ✓ **刑罰強化への執着**
- ✓ **身びいきの蔓延や腐敗(汚職)**
- ✓ **詐欺的な選挙**

■政治・社会活動に後ろ向きなジャパン

投票率52%ほど→200カ国中150位
低いほうから数えて4分の1

- 政治への関心
- 社会問題の解決
- 政策決定への参加
- 子どもや若者の意見の反映
- 社会現象の変革
- 政府の決定への影響

→これらに対して日本は軒並み、最小の数値が並ぶ

◆『現代世界憲章』の内容

第1部：「教会と人間の使命」

→教会と世界と現代の人間との関係

1. 人格の尊厳
2. 人間共同体
3. 現代世界における人間と教会

第2部：「若干の緊急課題」

1. 結婚と家庭の尊厳
2. 文化
3. 経済と社会生活
4. 政治共同体
5. 平和の推進と諸民族の共同体の促進



* 第二バチカン公会議



1962年10月11日~1965年12月8日 聖霊の出来事が起こった!!

* 第二バチカン公会議 =空前絶後の壮大な出来事!!

- ✓ 2年間の準備、4年間の会期
- ✓ 1万1000ページの資料、54巻の議事録
- ✓ 116か国、2500人の司教+スタッフ(第一バチカン公会議<1870>は750人、トリエント公会議は29人で始まり、最多で200人。4割はイタリアから)
- ✓ 他教派からのオブザーバー参加
- ✓ 1万人のメディア
- ✓ 「裁治的」でなく「司牧的・祝祭的」なスタイル
- ✓ 「源泉への回帰」と「現代化」



ヨハネ23世



* 聖ヨハネ23世



* 第二バチカン公会議の根本動機

- ✓ 教会の一致 (エキュメニズム)
- ✓ 平和 (二度と戦争をしない)
- ✓ カトリック教会が自らを開き、「世界」とかかわること

キューバ危機 (1962年10月)

冷戦争が両まていつた、キューバ危機
世界が震えた13日間

ソ連
アメリカ
トルコ
キューバ

アメリカ トルコのミサイル基地を撤去
ソ連 キューバのミサイル基地を撤去

フルシチョフ首相
ケネディ大統領

米、キューバ武器輸入封鎖

ソ連ミサイル基地を確認

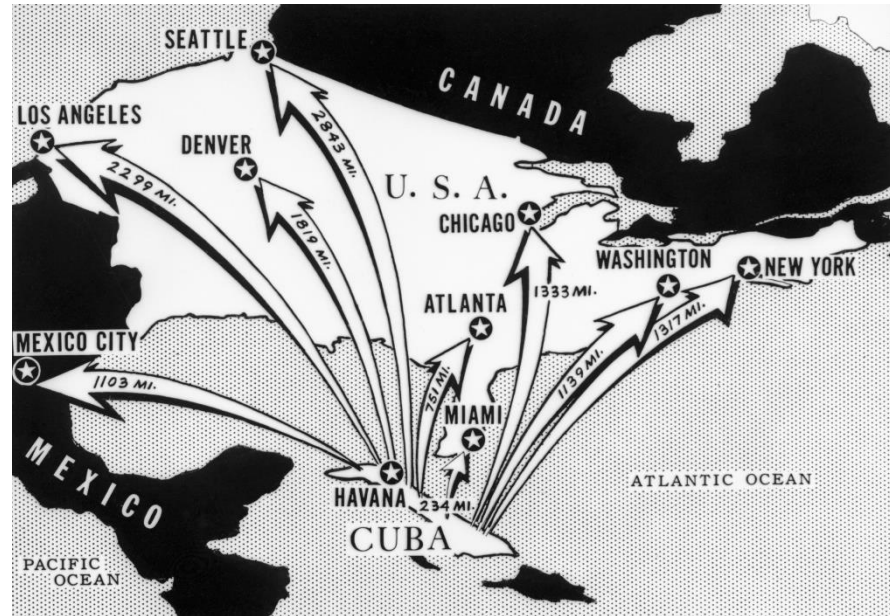
ケ大統領強硬決意を

ソ連に報復 基地からは攻撃あられ

全米に放送するケ大統領

停船命令

朝日新聞
夕刊
創刊 1872年10月27日
創設者 福澤諭吉



* ヨハネ23世 『地上の平和』より



●主題：「すべての民の間の平和について。…すべての善意の人々に向けて」

→基礎としての「真理」、基準としての「正義」、動機としての「愛」、実行力としての「自由」

→基礎としての「真理」、基準としての「正義」、動機としての「愛」、実行力としての「自由」

※相馬信夫司教:

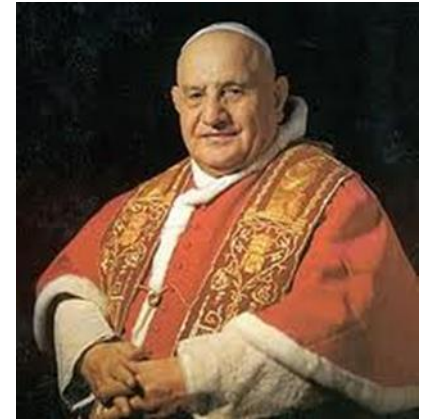
「人間は『平和』という屋根の下でだけで、人間らしく生きられます」。

→平和を支える四本の柱とは、

- ①基礎としての『真理』
- ②基準としての『正義』
- ③動機としての『愛』
- ④実行力としての『自由』です。



◆ ヨハネ23世『地上の平和』



● 4つのモチーフ:

1. 人間相互間の調和のとれた平和

→ 人間の尊厳+人権=人格の自覚から

1. 個人と国家の間の平和→各国民間の協力

2. 国家間の平和→超国家的権威の設立

3. 超国家組織・個人・国家の間の平和

→ イデオロギーの相違を超えた人間相互の協力

◆ ヨハネ23世『地上の平和』



5項（人格の尊厳とその根拠）

個人個人が真に人間である・・・権利と義務は、普遍的かつ不可侵で、譲渡しえないものです。

人間の尊厳を神の啓示の光に照らして考えると、・・・人間は、イエス・キリストの血によってあがなわれ、その恵みによって神の子、神の友となり、永遠の栄光を受け継ぐ者と定められているのです。

※ペルソナ：①仮面、②「響き合い」

◆ 世界の平和へ! (『地上の平和』の訴え)

★ 「抑止論」の否定

★ 「抑止論」ではなく愛による宥和

★ 人間の心におよぶべき軍備縮小



▶ 「抑止論」の否定

「軍備は、武力の均衡によってしか平和を保障することができないという、一般的な理解によって正当化されます」（59項）。

「よって、人間は、いつ発生してもおかしくない、想像を絶する恐ろしい嵐の脅威にさらされて生きています。…予想外の、制御不能な偶発事件が引き金となり、戦争が勃発する可能性は否定できません。…上述の理由で、正義、英知、そして人間の尊厳の尊重のためには、**軍備競争に終止符**が打たれること、既成の軍備が同時かつ平衡的に縮小されること、**核兵器が禁止**されること、そして最後に、**有効な監視を伴ったの軍備全廃達成**が切実に要求されます」（60項）。

▶ 「抑止論」ではなく愛による宥和

「原子力の時代において、戦争が侵害された権利回復の手段になるとはまったく考えられません。

しかし、会合や交渉によって、共通の人間性に由来するもっとも原初的な要求の一つが発見されることを望むことも間違っていない。

その要求とは、個人間、民族間の関係を、恐れではなく愛が支配するということです。それはすなわち、忠実で、多様で、多くの恩恵をもたらす協力によって表現される愛なのです」。(67項)

▶人間の心におよぶべき軍備縮小

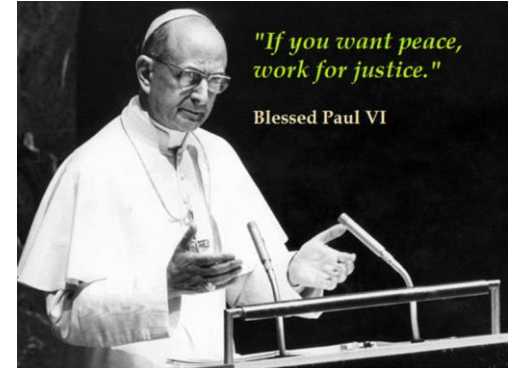
「人々の心の中から戦争勃発の予感に対する恐れと不安を払拭するために、すべての人は心から協力し、努力しなければなりません。

軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にしか構築できないという原則に置き換える必要があります。

わたしは、これが到達可能な目標であることを主張します」。 (61項)

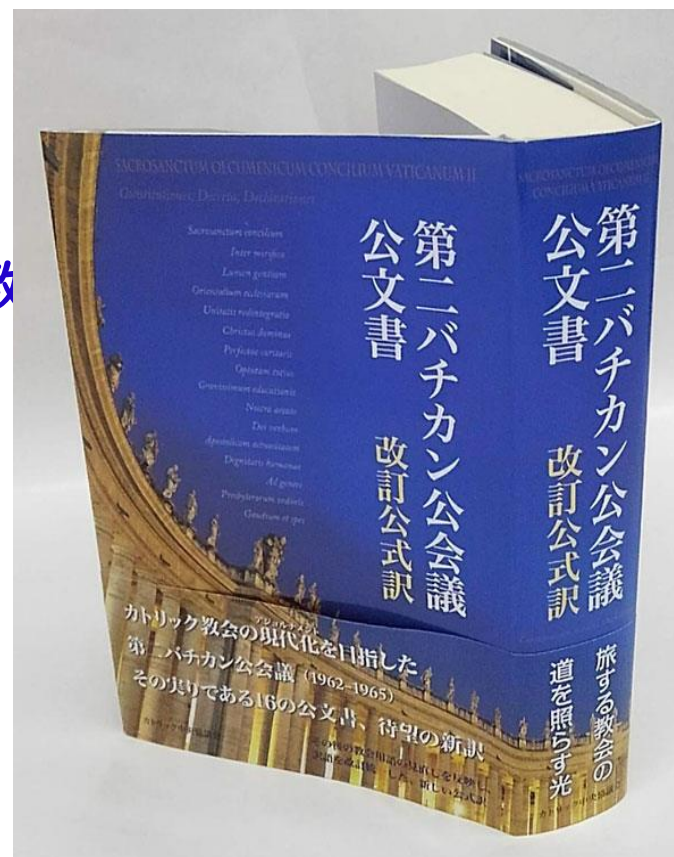
◆公会議の4つの目標 (パウロ6世・1963年)

1. 教会の本性への自覚を深める
2. 教会の内面を刷新する
3. キリスト教の一致を促進する
4. 現代世界との対話を深める

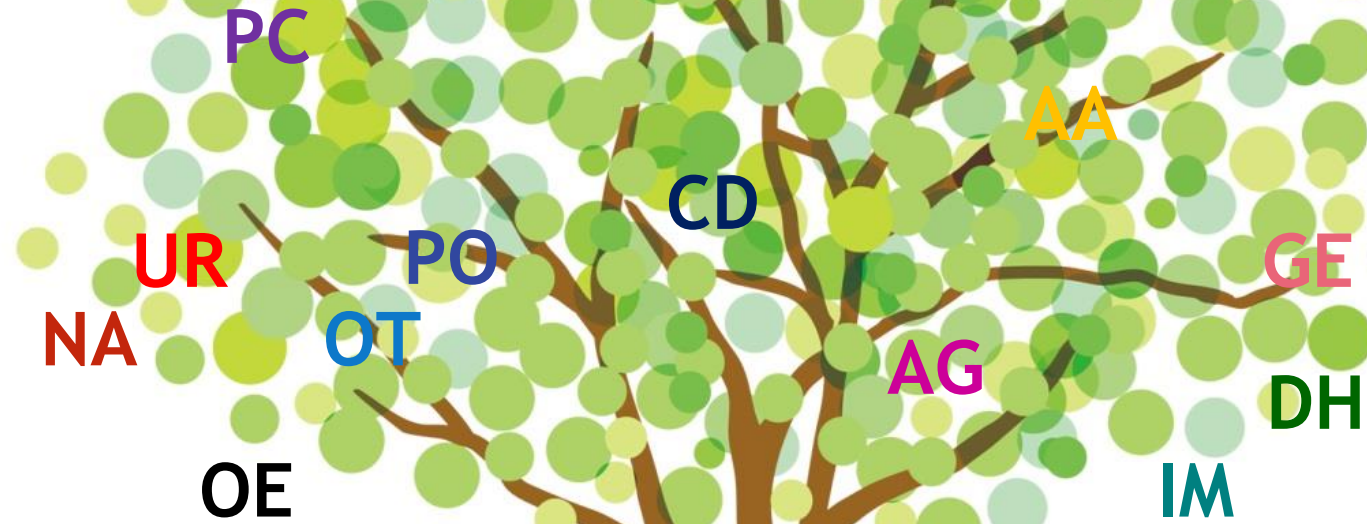


▶ 第二バチカン公会議の諸文書

- 典礼憲章
- 広報メディアに関する教令
- 教会憲章
- カトリック東方諸教会に関する教令
- エキュメニズムに関する教令
- 教会における司教の司牧任務に関する教令
- 修道生活の刷新・適応に関する教令
- 司祭の養成に関する教令
- キリスト教的教育に関する宣言
- キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言
- 神の啓示に関する教義憲章
- 信徒使徒職に関する教令
- 信教の自由に関する宣言
- 教会の宣教活動に関する教令
- 司祭の役務と生活に関する教令
- 現代世界憲章



“葉・花・実”
『現代世界憲章』



“幹”
『教会憲章』

『啓示憲章』 “根” 『典礼憲章』

◆ 第二バチカン公会議の4つの憲章

▶ 「幹」：教会の基本的自覚＝『教会憲章』

▶ 「根」：教会の内面生活

→ 教会の聖化＝『典礼憲章』

→ 教会の教えの根本（聖書）＝『啓示憲章』



◆第二バチカン公会議の4つの憲章

▶「葉・花・実」：外の世界へ向かう教会＝
『現代世界憲章』

→1965年12月7日、公会議の最後に完成。

『現代世界憲章』は、公会議のまとめ、総合、将来展望。



▶第二バチカン公会議の 基本的(神学的)ヴィジョン

- ✓「この世界は、救いの神秘が実現される舞台である」…救いは天国にある(二元論)のではない。
- ✓「神が人となる」(受肉) = イエス・キリストが神と人間(世界)をつなぐ「和解」である。
- ✓「人はパンのみによって生きるのではない。しかし現代人はパンのみによって死んでいる」(D・ゼレ) …「神無し」の世界の克服。

▶『現代世界憲章』の特徴：教会を世界に開く

★全体の文脈→「人間とは何か？」から考える

…『現代世界憲章』は、現代世界の切望（喜びと希望）への教会の重要な答え。

- 「真に人間的なことからで、キリストの弟子たちの心に響かないことはない」
- 「(教会) 共同体は、人類とその歴史とに現に深く連帯している」
- 「人間、それこそ、われわれの説明全体の要である」

序：現代世界における人間の状況

第1部「教会と人間の召命」

第1章「人格の尊厳」

第2章「人間共同体」

第3章「世界における人間活動」

第4章「世界における教会の任務」

第2部「若干の緊急課題」

結婚・家庭、文化、経済・社会、政治、平和…

◆ 問題:なぜカトリック教会は「人間」から考えるのか?

- 人間の「悲惨さ」と「最高の召命・真の尊厳」を示すため
- キリスト教的ヒューマニズム (Christian Humanism) と人格 (ペルソナ) の考え方
- 根底にある「自然」と「超自然」のかかわり

◆「人格」とキリスト教ヒューマニズム

- ・「すべての人間にとって隣人愛は可能であり、課題である」(フランシスコ『兄弟の皆さん』)

▶ペルソナであること

精神的価値である真理、善、美、そしてわれわれ自身の存在を、わかち合い、共有する交わりの世界で生きる者。

→社会的・共同体的な存在。「共通善 (bonum commune)」を共有する。

→友愛 (amicitia) の世界を生きる者。

→人間は**人格**として、**超越的共通善 (神)**への**自然本性**の傾きから社会を形成する**社会的存在**なのである。

◆ 聖書の平和 (シャローム) と西洋的平和

★ シャロームの意味

→ 「完成、全体、建物を建てる。円満な完成、統一性、全体性、充実」

→ 争いが無いだけでなく、個人と社会の生の積極的な質。

→ 終末論的、終わりの時のメシア的国の実現。人間関係における正常で本来的な状態。倫理的正しさ、正義を基礎とする。シャロームの完成は、神の賜物。人為的構築物でない。

→ 戦争は人間の罪の結果。

★西洋古代世界の「平和」という言葉「エイレーネー」(ギリシア語)「パックス」(ラテン語)は「闘争の不在、中断、休戦」との意味。

→人間社会においては、騒乱や戦争状態が基本だというのが前提。→人間のわざとしての平和

★「平和とは、絶対的の休息でも暴力的葛藤の一時的休戦でもなく、強い力が拮抗しながらも、全体性が保たれ、対立し合うものが破壊し合わない、そういうダイナミズムであり、『動態的な平和』である。すなわち、分裂せずに、相互作用しながら、進歩する状態。平和とは正しいことが生じる変化である」。(ローゼンストック・ハーシアー)

→シャロームの平和

▶ 『現代世界憲章』78項

「平和は単に戦争がないことでもなければ、敵対する力の均衡を保持することでもなく、独裁的な支配から生じるものでもない。

平和を「正義が造り出すもの」(イザヤ27)と定義することは正しく、適切である。

平和とは、人間社会の創立者である神によって社会の中に刻み込まれ、つねにより完全な正義を求めて人間が実行に移さなければならない秩序の成果である。

平和は永久的に獲得されたものではなく、たえず建設されるべきものである。」

◆ 平和とは？

★聖パウロ6世（『ポプロールム・プログレッシオ』76項）

「平和は、戦争のない状態に還元されるものではありません。
平和は、人間の間により完全な正義をもたらされる神が望まれる秩序を追い求める日々の中で構築されるものです」

★教皇フランシスコ（『福音の喜び』219項）

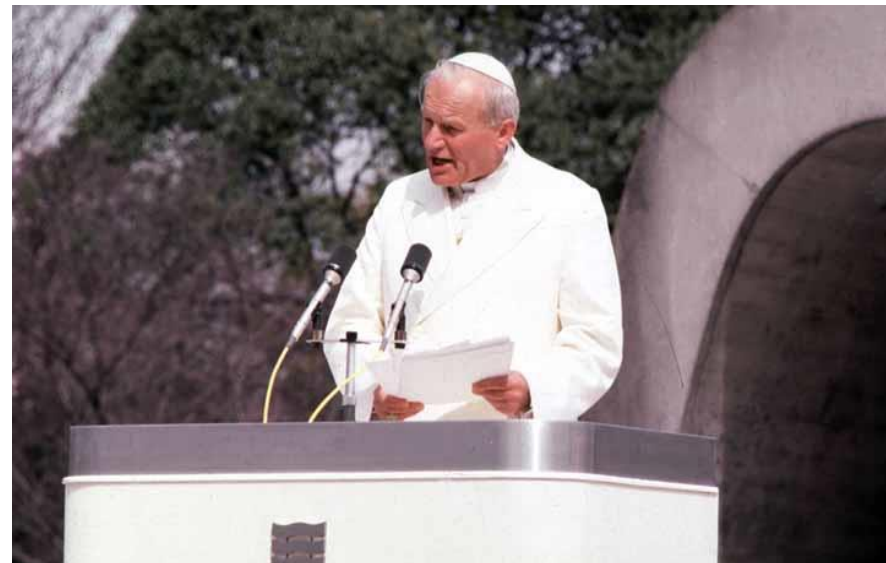
「平和とは、すべての人の全人的発展の実りとして生まれるものです。

そうでないものは、未来に向かうものではなく、常に、新たな紛争と種々の暴力の火種となるのです」

★ヨハン・ガルトウング（平和学）

「積極的平和とは、貧困、抑圧、差別などの『構造的暴力』がない状態のこと」

▶ 1982年、ヨハネ・パウロ二世 『平和アピール』（広島にて）



「戦争は人間のしわざです。戦争は死です。…過去をふり返ることは、将来に対する責任を負うことです。…広島を考えることは、核戦争を拒否することです。広島を考えることは、平和に対して責任を取ることです。」

…戦争という人間が作りだす災害の前で『戦争は不可避なものでも必然でもない』ということ、我々は自らに言い聞かせ、繰り返し考えてゆかねばなりません。…イデオロギー、国家目的の差や、求めるものの食い違いは、戦争や暴力行為のほかの手段をもって解決されねばなりません。

人類は、紛争や対立を平和的手段で解決するにふさわしい存在です。…今、この時点で、紛争解決の手段としての戦争は許されるべきでないという固い決意をしようではありませんか。…人類同胞に向かって軍備縮小と、**すべての核兵器の破棄**とを約束しようではありませんか。…自ら平和を学び、平和の教育をしようではありませんか」。

▶長崎の爆心地公園（2019年11月）

★「軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣いです。…武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いっそう破壊的になっています。これらは途方もないテロ行為です」

★「カトリック教会としては、人々と国家間の平和の実現に向けて不退転の決意を固めています。それは、神に対し、そしてこの地上のあらゆる人に対する責務なのです。核兵器禁止条約を含め、核軍縮と核不拡散に関する主要な国際的な法的原則に則り、飽くことなく、迅速に行動し、訴えていくことでしょう」



▶ 広島平和公園（2019年11月）

★「確信をもって、あらためて申し上げます。戦争のために原子力を使用することは、現代において、**犯罪**以外の何ものでもありません。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反します。**原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します**。2年前に私が言ったように、**核兵器の所有も倫理に反します**」



◆キリスト教において守られるべき価値とは？

キリスト教的な価値の基礎は、神の愛に基づく「正義」「自由」「愛」「平和」「連帯」とりわけ他者の人間の尊厳への尊敬。→人格的な認識に基づく。

★人間の尊厳

★良心

★共通善 (Common Goods) : 「集団と個々の成員とが、より豊かに、より容易に自己完成を達成できるような社会生活の諸条件の総体」

★連帯 (Solidarity)

★持続可能性 (Sustainability)

- ・エコロジーの原理としての持続可能性
- ・経済の原理としての持続可能性
- ・社会的原理としての持続可能性

◆ 現代カトリック教会の社会教説

※教会と世界と現代の人間との関係→世界をキリストの教えに従って変革することが、福音宣教の本質部分である。

1891年『レールム・ノヴァルム(労働者の境遇)』レオ13世の回勅

1931年『クアドラゼジモ・アンノ(40年後—社会秩序の再建)』ピオ11世の回勅

1961年『マーテル・エト・マジストラ(キリスト教の教えに照らしてみた社会問題の最近の発展について)』ヨハネ 23世の回勅

1963年『パーチェム・インテリス(地上の平和)』ヨハネ23世の回勅

1965年『現代世界憲章』第2バチカン公会議

1967年『ポプロールム・プログレシオ(諸民族の進歩推進について)』パウロ6世の回勅。

1971年『オクトジェジマ・アドヴェニエンス(回勅『レールム・ノヴァルム』公布八十周年を迎えて)』パウロ6世の教皇書簡。

1971年『世界の正義』シノドス文書

1975年『福音宣教』パウロ6世の使徒的勧告。

1981年『働くことについて』ヨハネパウロ2世の回勅

1987年『真の開発とは - 人間不在の開発から人間尊重の発展へ』ヨハネ・パウロ2世の回勅

1991年『新しい課題(教会と社会の百年をふりかえって)』ヨハネ・パウロ2世の回勅

2005年『神は愛(愛と正義のつながりについて)』ベネディクト16世回勅

2009年『真理に根差した愛』ベネディクト16世回勅



2013年『福音の喜び』フランシスコの使徒的勧告

2015年『ラウダート・シ』フランシスコの回勅

2020年『兄弟の皆さん』フランシスコの回勅

◆ 社会教説の主要な課題

1. 宗教生活と社会生活のつながり
2. 人格の尊厳・人権
3. 貧しい人々の優先的選択
4. 愛と正義のつながり
5. 共通善の促進
6. 政治参加
7. 経済正義
8. 資源の管理→環境問題
9. 世界的連帯
10. 平和の促進

→ 『兄弟の皆さん』という集大成

▶ 教会の社会への使命 (日本社会司教委員会『なぜ教会は社会問題に関わるのか』2012年より)

- この世における「神の国」の実現に向けて:倫理的枠組みの提供・良心の照らし(かかわり・方向性・批判)→信徒が福音と教会の教えに照らして自分の良心を育成する。
- 社会問題に関する教会独自の(=福音的な)基準:人間の尊厳・生存権・共通善・自由…etc.
- 具体的法安・法案についても教会の立場から発言する必要:中絶問題・戦争と平和・徴兵制度・核兵器・死刑制度・人種差別・労働問題・経済と格差・移民対策・少数民族と先住民の権利・自然破壊と環境問題…etc.

▶『現代世界憲章』76項

「教会の任務と権限から考えて、教会と政治共同体とは決して混同されるべきではなく、教会はいかなる政治体制にも結びついてはならない。教会は、人間の超越性のしるしであり、同時に擁護者である。」

しかし教会は、いつ、どこにおいても、真の自由をもって信仰を説き、社会に関する自らの教えを伝え、人々の間において自らの任務を妨げられることなく遂行する権利をもっている。さらに、人間の基本的権利や靈魂の救いのために必要とあれば、教会は政治的秩序にかかわることがらについても道徳的判断を下すことができる。その際、福音と、さまざまな時と条件に応じたすべての人の福祉にふさわしい手段のみを、しかしそれらをすべて用いる。」

◆ 教皇フランシスコのヴィジョンの根幹

= 「いつくしみと和解」による

→ Integral Human Development

全人的・総合的な人間の発展



◆教皇フランシスコにおける「人間中心」 Integral Human Development

→人間の生が成り立つ4つの局面

「創世記の中の創造記事は、それぞれ象徴的で物語的な言語で、人間存在とその歴史的現実についての意味深長な教えを語ります。密接に絡み合う根本的な三つのかかわり、すなわち、**神とのかかわり**、**隣人とのかかわり**、**大地とのかかわり**によって、人間の生が成り立っていることを示唆しています。（+自分自身とのかかわり）」

『ラウダート・シ』66項

◆人間のインテグラルな救い

① 自己との和解：自己認識・「神の像」の実現・救い

② 人間相互の和解：他者との正しい関係

→「正義の促進」

③ 被造界との和解：正義の実践の拡大

→エコロジータ的な責任

④ 神との和解：神との正しい関係

→「信仰への奉仕」



▶ “Integral Ecology” とは…

- 「人類がこの世界で占める場や、人類と周囲の現実との関係を統合する」というビジョン。
- 一人ひとりの人間の自分自身との関係とそこから生きられる内的な環境が、外の世界の環境の問題と深く結びついていることを強調する。
- 環境を守るためには、断片的で細分化された研究ではなく、「エコシステム間、社会関連の各分野間の相互作用」を考慮した知識が必要。
- そして、こうしたエコロジーを広げていくために、これまでとは違う生き方、すなわち「エコロジーに基づく回心」をきっぱりと選ぶことが勧められる。

◆教会と世界と現代の人間との関係

1963『地上の平和』(Pacem in Terris)



1965『現代世界憲章』(Gaudium et Spes)



1971『世界の正義』(世界代表司教会議)



2013フランシスコ『福音の喜び』

2015年 フランシスコ『ラウダート・シ』

2020年『兄弟の皆さん』

→世界をキリストの教えに従って変革することが、福音宣教の本質部分である



教皇フランシスコ

『兄弟の皆さん』

2020/10/3 発表



▶「社会的」回勅『兄弟の皆さん』

兄弟愛と社会的友愛→いっそうの正義と平和に満ちた、より良い世界構築の道への「開かれた心」による参加を人々と公共制度に呼びかける。戦争と「無関心のグローバル化」に対する反対。

第1章「閉じた世界の闇」→現代世界の闇

第2章「道端の異邦人」→根本原理（隣人愛）

第3章「開かれた世界を考え、生み出す」

第4章「全世界に開かれた心」

第5章「より良い政治」

第6章「対話と社会的友愛」

第7章「新しい出会いの道のり」

第8章「世界の兄弟愛に奉仕する宗教」

▶ 現代世界の危機への預言的提案としての『兄弟の皆さん』

- 「心を開きましょう!」→社会に、政治、経済、国際関係に。
- そのために「善きサマリア人」=「兄弟愛と社会的友愛」への回心をしましょう!
- 対話と和解のうちに、ともに歩み(シノダリティ)しましょう!
- とともに「人間らしさ」を養いましょう!
- インテグラル(全人的)な関わりの中で、ともに成長していきましょう!



Te pedimos
Señor fuerza y
sabiduría para
nuestro.

主よ、私たちのため
に力と知恵をお与え
ください。

VALORES
価値観